

# Irish

アイリッシュ・パブで夜な夜な  
繰り広げられるセッション……

ミュージシャンたちは、人に聴かせるためではなく、  
自分たちが楽しむために音楽を奏でます。

そんなセッションを聴きたくて、パブには多くの人が集まります。

パブという公共の場で、アイルランドの音楽は育まれているのです。

# Music

財団法人松江市国際交流協会補助金事業

# Workshop

# & Pub

# Session

本格的な夏の  
幕開けに、  
アイリッシュ・パブの  
セッションを  
松江で再現します。  
演奏したい人も、  
音楽と食事を  
堪能したい人も、  
みんな集まれ。

Saturday, 25th July, 2009 workshop: 15:00-17:00 pub+session 17:30-20:00  
at Matsue Internatinal Community Center 1st floor Event Hall fee workshop: free food: ¥1,000 (without drink)

奏でるヨロコビ、集うタノシミ……。一夜限りのアイリッシュ・パブで体感しよう。

## アイルランド音楽ワークショップ+セッション

2009年7月25日(土) ワークショップ:15:00-17:00 パブ+セッション:17:30-20:00

松江市国際交流会館 1階 イベントホール

ワークショップ参加費:無料 パブのフードチケット:¥1,000(要申込/ドリンクは別料金)

山陰日本アイルランド協会  
SANIN JAPAN-IRELAND ASSOCIATION

15:00-15:30

## イントロダクション

アイルランドの伝統音楽やセッションについてのお話。課題曲の一部を講師陣が演奏します。



15:30-17:00

## グループセッション(練習)

【コース】

ティン・ホイッスル *\_tin whistle*

フィドル *\_fiddle*

ギター *\_guitar*

- ティン・ホイッスルをお持ちでない方には貸し出します。
- フィドルとギターは経験者のみ対象。楽器をお持ちの方は各自ご用意ください。お持ちでない場合はご相談ください。

【課題曲】

Boys of Bluehill *\_tin whistle, fiddle, guitar*

Harvest Home *\_tin whistle, fiddle, guitar*

Haste to the Wedding *\_fiddle*

My Darling Asleep *\_fiddle*

Tripping Up the Stairs *\_fiddle*

Kesh *\_tin whistle*

Irish Washerwoman *\_tin whistle*

John Ryan's *\_tin whistle*

Spanish Lady *\_guitar*

Dirty Old Town (The Pogues) *\_guitar*



17:30-20:00

## パブ+セッション

一夜限りのアイルリッシュ・パブ、The Shamrock(シャムロック)でセッションに挑戦。ワークショップ参加者と講師陣による演奏と、おいしい食事とお酒を満喫してください。



楽器

Instruments

### ティン・ホイッスル *\_tin whistle*

……一見オモチャにも見えかねないホイッスル、名人の手にかかると、見てくれからは想像もできないような、すばらしい響きの音楽を奏で始める。数百万円の楽器と、このホイッスルのどちらが、より芸術的であるかは、ひとえに、演奏する人の腕にかかっているのである。



### フィドル *\_fiddle*

……どんなサイズであれ、ヴァイオリン奏者が演奏した時はヴァイオリン、フィドル弾きが手にするとフィドルに、この楽器は一瞬にしてその名を変えるのである。しからば、ヴァイオリン奏者とフィドル弾きはどこが違うのか。一言で言うならば、譜面に書かれた音楽を分析解釈し演奏するのがヴァイオリン奏者、楽譜からではなく耳から曲を覚えるのがフィドル弾きである。



### ギター *\_guitar*

最近のアイルランドの伝統音楽には、マンドリンやブズーキ、バンジョーなどのようにさまざまな弦楽器が使われている。これらの楽器は伴奏にまたはメロディーを演奏するのに使われる。ギターの歴史は新しく、1960年代～70年代のフォーク・ブームによって伝統音楽への参加が試みられた。これにより、より多くの人が伝統音楽を演奏し時には刺激的で衝撃的なリズム感を生み出すことができる。



ティン・ホイッスルとフィドルの解説と楽器の図版は、守安功「アイルランド人・酒・音——愛蘭土音楽紀行」(東京書籍)より抜粋。ギターの解説はキアラン・カーソン「アイルランド音楽への招待」(守安功訳、音楽之友社)を参照しました。

### マリー・マッギル *\_ティン・ホイッスル*

Marie McGill *\_tin whistle*

松江市立湖東中学校ALT

北アイルランド、バリーカッスル出身

6歳でティン・ホイッスルを始め、そのうちアイルリッシュ・フルートも演奏するようになった。14歳までの約8年間アイルランド伝統音楽のクラブに通い、演奏活動を楽しんだ。2006年夏来松。山陰日本アイルランド協会のティン・ホイッスル講座では講師を務める。One for the Road、Ceol agus Craicを結成し、各地で演奏活動を行う。今夏、ALTの任期を終えて帰国予定。



### ティム・オケイン *\_フィドル*

Tim Ó Céin *\_fiddle*

鳥取大学医学部医療英語講師

アメリカ、ウェスト・ヴァージニア州出身

本名ティモシー・ルイス・ウィルシャー(Timothy Lewis Wiltshire)。曾祖父がアイルランド人で、幼少時からアイルランド音楽に親しんできたが、自ら演奏し始めたのは最近。One for the Road、Ceol agus Craicに参加している。



### アダム・クック *\_ギター*

Adam Cooke *\_guitar*

松江市国際交流員

アイルランド、ティペラリー州出身

北京オリンピック選手団やアイルランド大使の通訳など松江市とアイルランドとの友好に尽力している。One for the Road、Ceol agus Craicの唯一のギタリストとして、各地で演奏活動を行う。



### キョール・アガス・クラック

Ceol agus Craic

松江を拠点に活動するティン・ホイッスル・バンド。2007年、セント・パトリックス・デー・パレード in Matsue参加のため、マリー・マッギルを中心に山陰日本アイルランド協会有志で結成。バンド名は駐日アイルランド大使B・スキャネル氏の命名。約10名のメンバーに、ピアノ、フィドル、ギターを加え、月2回の練習と月1回のセッションを楽しむ。

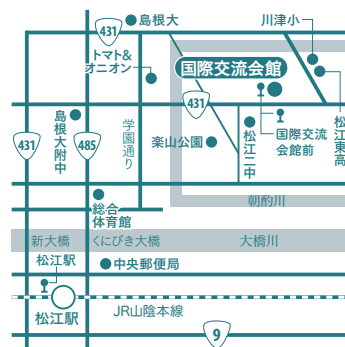
## 参加方法

## Entry

## アクセス

## Access

- 必要事項 ワークショップ:氏名、連絡先、参加するコース(ティン・ホイッスル、フィドル、ギターからお選びください)、楽器の有無  
パブ:氏名、連絡先、必要なチケットの枚数
- 料金 ワークショップ参加費:無料  
パブのフードチケット:1,000円(要申込/ドリンクは別料金)  
※料金は、当日受付にてお支払いください。
- 締切 7月20日頃
- 申込先 山陰日本アイルランド協会  
〒690-0044 鳥根県松江市浜乃木7-24-2  
鳥根県立大学短期大学部松江キャンパス 小泉研究室  
TEL/FAX: 0852-20-0207 携帯電話: 090-4109-5542  
E-mail: info@sanin-japan-ireland.org



JR松江駅から自動車で約10分  
 ♪市営バス「国際交流会館前」下車  
 ※イベント終了予定時刻(20:00)以降のバスはありませんので、あらかじめご了承ください。

お帰り際に自動車を  
 運転される方の飲酒は  
 お断りいたします。

最新情報は  
 ホームページで <http://www.sanin-japan-ireland.org/>